各大学の特色を活かした地域高等教育の活性化

平成30年度、令和元年度　選定

東京都市大学

取組のポイントや補助効果等

- ◆ 自治体との目標連動による地域一体となった取り組みの展開
- ◆ 都市型プラットフォームとしての強みを活かした大学間連携

2019年に創立90周年を迎えた東京都市大学は、武蔵工業大学を前身とし、理工学教育に力を入れて数多くの技術者たちを輩出してきた。世田谷キャンパスは、工学系学部を支える最新の設備に加え、多くの樹木に芝生も広がる、緑に彩られたキャンパスとなっている。

2015年には教育・研究成果を地域社会へ貢献させるべく「地域連携センター（地域連携・生涯学習推進室）」が設置され、新しい時代と社会の要請に応える大学として、改革の歩みが進められている。

取組の目的・背景

2001年12月、世田谷区内に所在する６つの大学（駒澤大学、国士舘大学、昭和女子大学、成城大学、東京農業大学、武蔵工業大学）が教育・研究の交流による相互啓発と地域社会へ貢献することを目的として、相互協力協定を締結し、「世田谷６大学コンソーシアム」を発足させた。当コンソーシアムでは、図書館の共同利用、単位互換、共同公開講座等、様々な取り組みを進めてきた。

そして2017年の私立大学等改革総合支援事業「プラットフォーム形成」（以下改革総合支援事業）の新設をきっかけに、同年７月の世田谷６大学コンソーシアム運営委員会にて、プラットフォームへの参画の提案が承認され、その後の世田谷区との協議で合意を得て、同年10月に大学と自治体の２者による「世田谷プラットフォーム」（以下世田谷PF）を形成した。その翌年度には区内産業界からの参画が得られて現在の３者による連携体制となった。

各種統計を活用した世田谷PFの独自分析では、区内の高齢・年少者人口率は高まることが予想され、一層幅広い年齢層に向けた教育の提供が必要となる。また、区内産業界に従事する若年層の割合が少なく高齢化社会に向けた人材確保が課題となっており、地域発展への影響が懸念される。

こうした状況を踏まえ、改革総合支援事業の枠組みを効果的に活用し、各大学の特色化・資源集中の促進を図り、在学生や世田谷区民等のステークホルダーに対する高等教育・実務教育の提供や、地域の課題解決のための研究協力、学生ボランティア活動等、様々なソリューションを通じて、中長期計画に定める５つのビジョン達成に向けた活動を展開している。

取組内容

世田谷PFの目的やビジョンの達成を示すアウトカム指標として、「2022年における区内高等学校の進学率68.1%以上」、「2022年における区内就業者数100%以上維持（2018年度比）」を掲げ、さらに2018年度から2022年度までの活動指標と数値目標を定めた中長期計画を策定することで、その実効性を高めている。

ビジョン１【文化・芸術・教育】

活動指標	数値目標			
	2019	2020	2021	2022
公開講座等提供件数（eラーニング含む）	315件	320件	330件	340件
eラーニング（せたがやeカレッジ含む）による講座提供件数	8件	9件	10件	11件
教育支援活動を実施した小中学校数	62校	64校	66校	68校
学生ボランティアによる区内小・中学校等への教育活動支援派遣者（世田谷区「区立幼稚園、小・中学校等への教育活動支援事業」含む）	75名	75名	75名	75名
乳幼児及び保護者への支援活動並びにその啓発活動の実施件数	10件	10件	10件	10件
障がい者支援活動及びその啓発活動の実施件数	13件	13件	13件	13件

世田谷の歴史・文化・芸術への理解・関心を高めるとともに、世田谷区内にある大学の教育リソースを提供することで、学びの場である地域好感度の醸成、世田谷ブランドの向上を目指して、公開講座等による「高等教育の提供」、「区内小中学校等への教育活動支援」、「乳幼児及び保護者への支援の推進」、「障がい者支援の推進」を実施している。特徴のある６つの大学によりプラットフォームが形成されているため、広範囲の学術分野をカバーした取り組みが実現され、特にeラーニングシステム「せたがやeカレッジ」は、世田谷PF形成６大学と世田谷区教育委員会が共同で運営している生涯学習Webサイトであり、各大学や教育委員会から講師を招いて社会・環境、法律、歴史・文化、スポーツ・健康等の講義を無料配信し、世田谷区のステークホルダーに対して多くの講座を提供している。

ビジョン２【地域活性】

活動指標	数値目標			
	2019	2020	2021	2022
イベントの開催・協力件数	90件	95件	100件	105件
防災教育の参加者数	17500名	17500名	17500名	17500名

近隣同士の付き合いや地域のつながりを深めることを目的とする「地域振興・交流イベントの推進」や、自然災害等に対応するための「防災教育の推進」を実施している。世田谷区が主催した自治体間連携フォーラムをきっかけに、区と交流のある地方自治体とも関係を築き始め、地域振興・交流イベントの活動の幅が広がっている。また、2018年度には国士舘大学において防災研修会が実施され、世田谷PFより世田谷区と６大学の計42名が参加し、震災時の対応についてHUG（ハグ）と呼ばれる手法を用いて実習を行った。

私立大学等経常費補助金ファイル

（交付額：千円単位）

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
一般補助	669,165	837,891	913,406	1,116,410	1,121,136
特別補助	89,447	119,238	215,040	239,792	338,256
補助金合計	758,612	957,129	1,128,446	1,356,202	1,459,392
改革総合支援事業選定タイプ数	1	4	4	5	3

※改革総合支援事業は4タイプ中の選定数（2017年度及び2018年度は5タイプ）

ビジョン３【産業】

活動指標	数値目標			
	2019	2020	2021	2022
区内産業界へのインターンシップ参加者数	160名	170名	180名	190名
区内への就業者数	150名	160名	170名	180名
社会人向け教育プログラム数	試行	実施		
産業イベント開催・協力件数	7件	10件	12件	14件
創業機運醸成のためのイベント等開催数	3件	3件	3件	3件

産学官の連携体制を構築し、新たな商品開発や区内における就労及び起業の促進を図り、区内産業の活性化を目指している。ここでは「企業との連携推進」を目標に掲げており、「区内産業界へのインターンシップ参加者数」、「区内への就業者数」、「社会人向け教育プログラム数」、「産業イベント開催・協力件数」等を指標とし、取り組みを進めている。キャリア部会が毎年開催する「学生交流プログラム」は、世田谷区内の企業をゲストに招き、学部１年生を対象として区内の企業の魅力を伝えるとともに、「働く」とは何かを考え、社会人になったときの姿をイメージさせることで就業への意識を高めている。

ビジョン４【国際化】

活動指標	数値目標			
	2019	2020	2021	2022
国際化推進イベント参画・協力件数	44件	45件	46件	47件

「国際感覚の醸成」を目指して国際イベントの開催等を計画に掲げ、各種取り組みを進めている。また、区が主催する各種国際交流イベントに積極的に参加し、人、国、地域がつながることにより、さらなる地域の魅力向上に貢献していきたいと考えている。

ビジョン５【大学等の連携】

活動指標	数値目標			
	2019	2020	2021	2022
共同FD・SD開催件数	2件	2件	2件	6件
共同の単位互換科目数	248科目	248科目	248科目	248科目
共同利用が可能な施設・設備登録数	608件	608件	608件	608件
参加校（大学・高専）数	9校	10校	11校	13校
共同学生募集活動件数	8件	8件	8件	8件
学生ボランティア派遣件数 （世田谷区「ボランティア事業」との連携	試行	実施		

世田谷区内にある大学等が連携し、学生の成長の支援体制を強化するとともに、世田谷区で学ぶことの魅力向上を目指している。

■ 世田谷６大学コンソーシアム連携授業事業

2015年度より開始した事業で、世田谷PFの形成６大学間で相互に教員を派遣し、正課の授業科目を担当する取り組みである。各大学が特色を活かした授業を他大学の学生に提供し、さらに教育・研究の交流による教員や大学の相互啓発と教育の質の向上に役立てることを目的としている。開講科目は各大学が持ち寄ったラインナップから自大学で開講したい科目の希望をとり、幹事校が調整・決定する流れをとることで最適なマッチングを可能としている。その結果、2018年度は全体で606名が、2019年度は783名が連携授業を受講するなど活用実績の向上が見られた。

■ 共同FD・SDの開催

世田谷PFの形成６大学で2019年３月には財団法人大学基準協会から講師を招き、認証評価と教育の質保証に関するSD研修会を、同年10月には若手職員を対象としたSD研修会を共同で開催し、大学間の情報交換が活発に行われた。また、2020年度は「オンライン授業の質保証」をテーマとしたFDシンポジウムが開催された。教員のITスキルに幅がある中でも授業間格差の少ない統一された教育リソースの提供や、対面とオンラインとのいわゆるハイブリッド型授業、パソコンを持っていなくてもタブレットやスマホのみで授業に参加できるよう課題を整えた授業など、世田谷PFの形成６大学の教員がそれぞれの特色ある授業を共有し、今後のオンライン授業の質保証やさらなる利便性の向上が期待されている。プラットフォームのつながりを活かして様々な大学の知識を共有する場を設けることで、コロナ禍で大学が直面している課題の解決に向けて活動している。

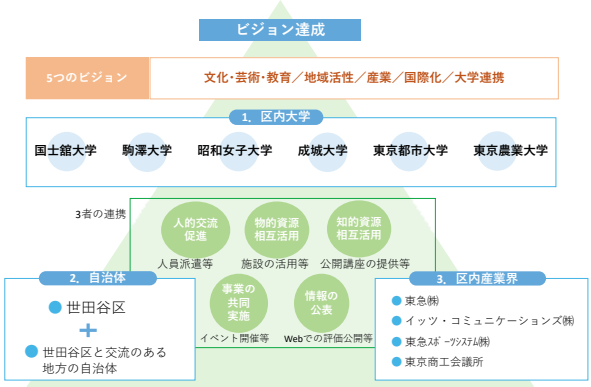
共同SD研修会の様子

■ 共同進学説明会

都市型プラットフォームならではの取り組みとして、立地の良さを活かした集客力のある共同進学説明会を行っている。アクセス便利な当大学の二子玉川夢キャンパスを会場とし、毎年一定規模の参加がある。世田谷エリアに進学したい受験生にとって魅力的な情報を得られる機会となっている。

2020年度はコロナ禍に対応したオンラインによる共同の大学説明会を実施し、会議システムを使用することで、関心の高い大学の情報を効率よく視聴できる仕組みとなっている。

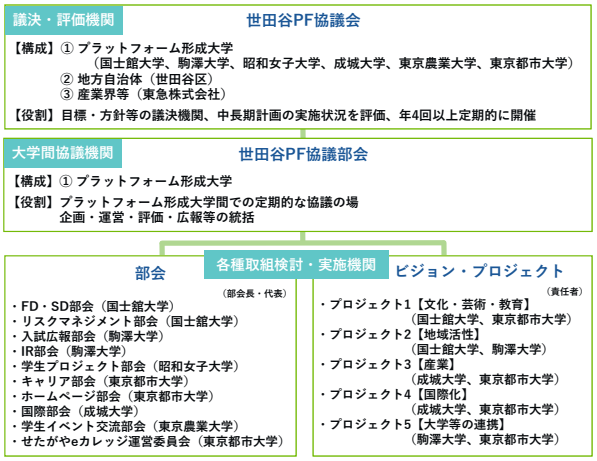
この他にも、入試動向や大学選びに関する共同IR、高校訪問、保有する施設・設備の共同利用等、様々な連携活動を行っている。



世田谷PF概要図

実施体制

議決・評価機関である「世田谷PF協議会」、形成大学間での定期的な協議の場である「世田谷PF協議部会」を設置し、さらに５つのプロジェクトには責任者、各種取り組みについては部会長や代表を置き、各大学・自治体、産業界等と連携した実施体制としている。



全体実施体制及び評価体制

成功のポイントや苦労した点

都市型に分類される世田谷PFは、自治体と目標を連動させることで地域一体型の取り組みの展開が可能となった。実施に当たっては、ビジョンや取り組み内容に応じた部会を設け、責任者や部会長に適切な大学を担当に割り当て、各大学のノウハウを積極的に活用しながら連携を進めた。

プラットフォームは、様々な特色を持つ地域の機関が中長期ビジョンのもと知財を共有し、地域の総合力として相互に発展しあう仕組みである。このメリットを最大限に発揮させるため、コミュニケーションを重視している。定期的な協議の場である協議会、協議部会及び各部会において関係機関との意思疎通を図り、共同のFD・SDやIR活動等の取り組みを通じて若い世代とも交流を深め、世田谷PF内の連携を強めている。

今後の課題・展望

今年度はプラットフォーム形成から３年目となり、サイクルを追うごとに関係機関の相互理解は進んでいるものの、中長期計画には未達成の項目や一部の大学のみで実施している項目が含まれている。そのため、今後は目標達成の手段を再確認するとともにコロナ禍での取り組みの在り方についても検討をさらに進める。

世田谷PFは改革総合支援事業における特定の地域を世田谷区としているが、同区と交流のある全国各地の地方自治体との連携も視野に入れ、イベント開催やインターンシップ等の実現を模索してきた。現在、いくつかの具体的な連携施策を調整中であり、引き続き、相互の発展に向けて尽力していくこととしている。

また、世田谷区内には13の大学がキャンパスを置く中、世田谷PFは現在６つの大学で形成されている。今後のさらなる取り組みの充実化・地域の活性化に向けて、世田谷PFへの参画を他の大学にも継続的に呼びかけ、より充実した実施体制を目指している。

改革成果を示す客観的な数値データ（抜粋）

実績項目	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
eラーニング（せたがやeカレッジ含む）による公開講座提供件数	6件	4件	3件	10件	24件
世田谷区内の企業等への就業者数	182人	171人	195人	203人	194人
共同FD・SD開催件数	0件	1件	1件	3件	4件
世田谷プラットフォーム参加校数	－	－	6校	6校	6校